1. 令和6年10月～12月期の景気動向

今期のDI平均値は△34ポイント。サービス業は2ポイント上がったが、製造業は1ポイント、卸売業は22ポイント、小売業は6ポイント下がり、建設業は横ばい。前期の7～9月の△28．6ポイントから5．4ポイントマイナスとなった。

業種／項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 44)	△ 75 (△ 38)	△ 44 (△ 37)	△ 38 (△ 39)	△ 67 (△ 33)	△ 33 (△ 22)	△ 35 (△ 47)	△ 24 (△ 29)	△ 33 (△ 50)	△ 39 (△ 28)
採算		△ 56 (△ 44)	△ 63 (△ 44)	△ 45 (△ 27)	△ 49 (△ 39)	△ 22 (0)	△ 11 (0)	△ 42 (△ 40)	△ 28 (△ 38)	△ 24 (△ 41)	△ 24 (△ 31)
資金繰り		△ 19 (0)	△ 31 (△ 19)	△ 35 (△ 20)	△ 26 (△ 20)	0 (0)	△ 11 (0)	△ 40 (△ 31)	△ 34 (△ 38)	△ 12 (△ 17)	△ 19 (△ 28)
業況		△ 38 (△ 38)	△ 64 (△ 38)	△ 39 (△ 38)	△ 42 (△ 26)	△ 22 (0)	0 (△ 22)	△ 42 (△ 36)	△ 28 (△ 26)	△ 29 (△ 31)	△ 25 (△ 27)
経営上の当面する問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		従業員の確保難		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	2位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		需要の停滞	
	3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
業種別コメント		売上高は13ポイントのプラスになったが、官公・民間需要の停滞や材料価格の上昇により収益性は悪化し、採算は12ポイント、資金繰りは19ポイントのマイナス、業況は横ばいとなった。来期の見通しは官公・民間需要の停滞および建設資材価格の高止まりの継続が予想されるため、依然として厳しい状況が懸念される。		需要の停滞により売上高は7ポイント、さらに原材料価格の再値上げにより、採算は18ポイント、資金繰りは15ポイント、業況は1ポイントと全項目でマイナスとなった。来期の見通しについては、売上高は若干の回復が期待されるが、原材料価格の高止まりや受注減少により、資金繰り・業況では厳しい状況が懸念されている。		需要停滞により売上高は34ポイントのマイナス、さらに従業員の確保難、仕入単価の上昇により収益性は悪化し、採算と業況は22ポイントの大幅なマイナスとなった。資金繰りについては金融機関からの後押しもあり、横ばいとなっている。来期の見通しについては、物価高の継続から売上高・採算・資金繰りで引き続き厳しい状況が懸念される。		長引く物価高による消費者の買い控えの影響で需要が停滞し厳しい状況が継続しているが、季節要因により売上高は12ポイントプラスとなった。商品仕入価格および電気代等の光熱費の上昇、加えて消費者ニーズの変化により採算は2ポイント、資金繰りは9ポイント、業況は6ポイントマイナスとなった。来期の見通しについては、季節要因による需要への期待感により売上高・採算・資金繰りの回復が期待される。		依然として利用者ニーズの変化や需要の停滞により厳しい状況が続いてはいるものの、季節要因により売上高は17ポイント、採算は17ポイント、資金繰りは5ポイント、業況は2ポイントと全項目でプラスとなった。来期の見通しは物価高による消費低迷により、売上高の回復は厳しい状況が懸念されるが、人流の回復に伴い採算・資金繰り・業況の回復が期待される。	

とくに好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
(50≦DI)	(25≦DI<50)	(0≦DI<25)	(△25≦DI<0)	(DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値